

文部科学大臣

萩生田 光一 様

全国高等学校長協会

会長 萩原 聡

令和3年度大学入学者選抜に関する要望書

日頃より、大学等への進学を目指す高等学校の生徒に対して、ご指導ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染状況は地域によって大きく異なっています。本協会では、大学入試に関するアンケート調査の実施と併せて、6月6日に都道府県高等学校長協会長研究協議会を開催し、各地からの状況報告をもとに協会としての対応について協議を行いました。通常通りの活動が行われている地域がある反面、登校時間や登校人数が制限され未だに通常授業が実施できていない地域があるなど、地域格差が予想以上に大きいことが明らかになりました。授業再開が厳しい地域からは、「このままの入試日程では学習指導要領に定められた指導内容を終わらせることができない。」「臨時休業によって進路希望が変わった生徒に対する十分な進路指導ができない。」など切実な声が上がリ、協会として進学を希望するすべての高校生に臨時休業によって失われた学習の機会を保障し、十分な進路指導を行う時間を確保することを求めていることを確認しました。

先日実施したアンケート調査では、共通テスト、一般選抜では約3割の会員が予定通りの実施を求め、約4割の会員が予定通りの実施を求めるものの予備日の日程を明確にすることを求め、約3割の会員が延期を求めています。これ以外にも出題範囲の配慮等を求める声も多数ありました。

本協会は、アンケート結果を受け6月13日に臨時の都道府県高等学校長協会長研究協議会を開催し、令和3年度大学入学者選抜に関する要望について協議しました。参加者からは、「教育に携わる者としては未だ厳しい状況にある高校生に配慮すべきである。」「延期を求める約3割の校長の声は大変大きいものである。」などといった意見が多く出され、最終的に以下の二点を要望することといたしました。

大学入試は、高校生にとって一生を左右する大きな関門です。大変厳しい状況の中ですが、生徒を送り出す高等学校として生徒たちの不安をできるだけ和らげ、必要な教科指導、進路指導を行って、大学入試に向かわせたいと考えています。

貴職におかれては、大学入試の実施主体である各大学や大学入試センターとの連携を進めて、高校生が不安なく進路実現に取り組んでいくことができるよう、受験生第一の立場に立って、令和3年度大学入学者選抜の実施に特段かつ速やかなリーダーシップを発揮していただくことを強く要望いたします。

記

- 1 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本来の学習の機会を失った全ての受験生に、学習指導要領が定める指導内容の学習の履修の機会を確保し、全国のすべての受験生が、安心して公平公正な大学入試に臨めるよう、大学入学共通テスト及び国公立すべての大学の総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の実施時期を一体的に1か月程度後ろにずらすことを求める。
- 2 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業等がさらに実施された場合、入試時期等について柔軟な対応を求める。